
元帥と私

たいすん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

元帥と私

【Zコード】

Z3567H

【作者名】

たいすん

【あらすじ】

主人公のクラウス・バーグ少尉は上官であるリリカ・グリーデン元帥からのセクハラ発言に突つ込みを入れつつも国を守るために日夜働いていた。しかし、平和だったマイレーン王国に戦乱の兆しが見えはじめていた

「君は姉萌えか？それとも妹萌えか？」

「は？」

「だから、君は妹と姉のどちらに萌えるのかと聞いているんだ」「何ですか急に。そんなことより仕事をしてください、仕事を。」

「何を言っているんだ、クラウス君。部下の性癖を把握するの」は上司として必要なことだぞ。それに、君が夜な夜な私のことをどんな風に想像し、無茶苦茶にしているかとても興味がある。たあ、君のそのどす黒く淫らな妄想を私に教えてくれ！」

「アホかああああ！」

ここはマイレーン王国元帥府。王国軍を司る重要な施設であり、国防の中核である。外観は誰もが息を呑むような莊厳な建物でありますものを威圧するような迫力があるが、しかし逆に内部はいたつて簡素な造りになつており初めて訪れたものは外と内との差の激しさに驚くものが多い。この元帥府内にある執政室に一人の女性がいる。椅子に寝そべり、足を机の上に投げ出し、お世辞にも行儀が良いとはいえない姿勢で意味不明なことを言う、この人こそ王国唯一の元帥であるリリカ・グリー・デン将軍でありクラウス・バーグ少尉はその側近である。

「まったく、たまにはまじめに仕事をしてください。いくらわが国が平和だからと言つて将軍がそんな様子だと兵士の指揮に関わります」

「なに、軍人なんてものは暇なほうが良いんだよ。私は戦争なんかより、君のその服の上から見えるお尻のラインを眺めているほうがよほど楽しいし興奮するよ」

「馬鹿なことを言わないでください。それにそれは男性が女性に言うようなものであつて、この場合将軍は言われる側でしょう？」「

「なんと！クラウス君は私の肢体に興奮してくれるのかね！これは良い、さあ私の胸に飛び込んでくるんだ」

「だれが飛び込むかっ！」

「尻でもいいぞ？」

「黙れよ！」

彼女リリカ・グリー・デンは性格に難があるものの、容姿は非常に優れている。整った顔立ち、スラリとした長身に、腰まで伸びた艶やかな黒髪、細身でありながら鍛えられたその体は女神の彫刻のようであり、服からはちきれんばかりの胸がより彼女の女性としての魅力を際立たせている。このように男性なら誰もが目を奪われるような美貌をもつていて、評判はあまりよくない。なぜならこの国は平和だからだ。

マイレーン王国は現国王ヨセフ3世の代になつてから政策を一転、他国との関わりを最小限にし消極的な外交政策を行つていて。自国の内政を重視するといえば聞こえは良いが、要は他国との問題に極力関わらないようにしているだけであり、また肝心の内政も増税や民に重い労役を課すといった政策がとられ、民の間では国王は暗君であると、まことしやかにささやかれている。また、他国から余計な警戒をされないように、軍を大幅に縮小。名だたる將軍をほとんど免職していき、残つたのはすでに第一線から身を引いていた老将と実戦経験の無い若い将校達だけとなつていた。そして、軍の最高指揮官には、若く実績も無いしかも女性であるリリカ・グリー・デン将軍をお飾りとして任命した。結果、民のみならず軍内にもリリカ・グリー・デンを非難する声が多く、余計な摩擦を生み、そのことでクラウス・バーグ少尉の仕事が増えることになつていて。

「それにも将軍」

「私のことはお姉さまと呼べ」

「うるせえよ！」

「何？さては妹派か？」

「だからうるせえって！」

「クラウスおにいちゃん」

「キモいからやめろー！」

「なんだクラウス君、上官に向かつてその口の聞き方は無いだろ？」「ひ

「あんたが変なこと言つからだ！」

「変なとは聞き捨てならんな。昔は私のことをリリカお姉ちゃんと

呼んで、あんなに懐いていたじゃないか……。そうか、時の流れと

は残酷なものだな」

「あんたと知り合ったのは去年が初めだ！ 適当なこと言つな！」

「で、何の話だクラウスおにいちゃん」

「だからっ！ ああ、もういいですよ。この国の今の状況のことです。将軍は不安じやないんですか？ 今の軍備じや他国に攻められるとたまりもありませんよ？」

「最高指揮官がド変態だしな」

「自分で言わないでください！ 将軍は危機感つてものが無いんですか？ 今までこそ周りの国とは大きな揉め事はないんですけど、いつ状況が変わるかわからないんですよ！ 不意をつかれてわが国が襲われるかもしれないんですよ」

「私は君を襲いたいぞ！」

「何の話だ！」

「上に乗るのが好みだが？」

「聞いてねえよ！」

「まあ、マジ話はさておき」

「冗談にしてぐだせー！」

「私は現状で満足してるよ。他国と戦もなければ諍いもない。民衆の間では不評のようだが、陛下はよくやつておられると思つ。軍を縮小するのも国内産業を発展させるところの意味では間違つていないしな。労役も道路の整備や運河の治水など後々民に恩恵が返つてくるものだ。増税で得た資金もそれに使つているようだし。陛下が名君かどうかは私には判断できないが、少なくとも陛下なりに民のことを考えてやつていいことだとおもうよ」

「それは、確かにそうですけど……」

「もし何かあつたときはその時考えれば良いことだよ。起にいつても
いないことで悩むことほど愚かなことはない」

「そういうもの、でしょうか」

「そういうものだよ」

「……それでも、やはり、私は将軍ほど冷静にはなれそうにあります。
せん。しかし、將軍も大事なところはちゃんと見ているのですね。
いつもボーッとしているだけだと思つていました。見直しましたよ。
「フン、当たり前だろう、私は元帥なのだからな。だからクラウス
君、今晚私の寝室の鍵は開けておくからいつでもきてくれていいぞ
?」

「もうあんたしゃべんなよ!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3567h/>

元帥と私

2010年10月14日15時10分発行